

## 平成30年度 白鳩チルドレンセンター八雲中 事業報告

### 1. 概要

#### ①運営報告

- 守口市では昨年度途中10月に園周辺に小規模が5ヶ所開園しました。また、平成31年4月より保育所が3園新設されたため、新年度を、0～2歳児の定員割れでスタートする施設が多数ありました。待機児童数についても守口市では平成31年4月1日現在で0人と報告されています。保育施設の新設や定員増により、園児の確保はもちろんですが、保育士の確保が難しい状況となっているため、新年度は定数外の園児数などを調整し対応しました。
- 「一日の教育・保育の流れ」を周知徹底できるように、基本の部分に戻りながら保育の実施方法を見直していきました。リーダー的職員が異動、退職したことを受け、中堅職員が中心となり意見を伝え合いながら保育を考えていくことで責任感も出てきたように思われます。また、災害時（地震、台風）の対応、熱中症など危機管理時の対応について、それぞれの職員が園の課題を見つけながらマニュアルなどの見直しをしました。自分で考え作り上げていく作業は職員の人材育成へとつながりました。
- 離職を防ぐためには家賃補助などの補助金の活用その他、「やりがいのある職場」として「仕事の内容」や「仕事の質」を見直すことも必要と考え、書類作成や行事計画など、保育業務の改善を、主任、リーダーを中心にして取り組みましたが、今年度は主任を含む数名の退職者がありました。

#### ②定員 129名

1号認定 17名（定員15名）

2号認定 76名（定員63名）

3号認定 61名（定員51名）

合計154名

③開園日数 292日（日曜、祝日及び12月29日から1月3日は休園） 教育週数 39週

④開園時間 平日7:00～20:00 土曜日7:00～18:30

#### ⑤保育時間

##### ★2号 3号認定児

平日	早朝保育	7:00～8:30	土曜	早朝保育	7:00～8:30
	通常保育	8:30～16:30		通常保育	8:30～16:30
	延長保育	保育短時間児 16:30～20:00			16:30～18:30
		保育標準時間児 18:00～20:00			16:30～18:30

##### ★1号認定児

平日	早朝保育	7:00～9:00
	通常保育	9:00～13:30

預かり保育 13:30～20:00

⑥職員数

園長 1名、 主幹保育教諭 2名、 看護師 1名、保育教諭 22名（うちパート8名）  
障がい児加配 4名（うちパート2名）  
子育て支援センター事業 保育教諭2名 延長保育事業 保育教諭（パート）2名  
一時預かり事業 保育教諭（パート）1名  
預かり保育教諭 保育教諭（パート）1名  
その他保育補助 1名（無資格） 保育支援員 1名  
学校内科医・学校歯科医各1名（年各2回検診実施） 学校薬剤師1名（年2回検査実施）

2. 教育保育運営

①教育・保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で成長することが望ましいと考えます。
- 私たちは子どもの個性、人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②教育・保育方針

- 社会福祉法人白鳩会保育メソッド・一日の保育の流れを中心に、子どもたちが主体的に生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分発揮し人として『生きる力』を育む。
- 在園児および地域の子育て支援を行う。
- 愛着関係を確立させ、子どもとの継続的な信頼関係を築く。

③教育・保育目標

乳児期の愛着関係を基盤とし、認知能力（記憶、計算、判断、決定、言語理解など）と非認知能力（意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、思いやり、自己肯定感）を育む。

④クラス体制

（3号認定）

0歳児	12名	保育教諭4名	看護師1名
1歳児	24名	保育教諭4名	
2歳児	26名	保育教諭4名	

（2号認定）（1号認定）

3歳児	26名	6名	保育教諭3名（うち加配保育教諭1名）
4歳児	27名	5名	保育教諭2名（うち加配保育教諭1名）
5歳児	25名	6名	保育教諭3名（うち加配保育教諭2名）

## ⑤教育・保育内容

- 保育の現場確認をする中でリーダー的職員が中心になり「保育の一日の流れ」について見直しをしていきました。保育の実施方法についても何度も話し合いをしながら確認をしていけたことで、それぞれが自分の保育を見直す良い機会にもなりましたが、方法論だけではなく、行っているその意味についても同時に伝えていく難しさがありました。新入職員やパート職員を含めて全職員が共有するために、引き続き現場指導を行なっています。
- 子どもと保育者の愛着関係の構築のために行っている乳児クラスのじゃれつき遊びについては、子どももとても楽しみにしている時間ですが、毎日の日課である分、反対にマンネリ化している部分もあります。次年度はふれあい遊びの研修などで学んだことを実践していけるように指導計画に位置付けて取り組んでいきます。
- 幼児クラスの早朝保育では、エネルギーの高い子どもが多く落ち着かなかったため、エアマットなどを利用したサーキット遊びなどを行い、前日の脳内ストレスが発散できるようにしました。「朝の意味ある運動」についてクラスで話し合いカリキュラム化したことで、場所や遊び方を考えながら継続して取り組むことができました。
- 大型遊具の家を購入したことから、どのクラスの子ども達も共通に遊ぶことができる遊びのコーナーを作りました。少人数のグループでままごとやブロックなど好きな遊びができるスペースは子ども達のほっとできる時間になっています。
- 担当者を中心に年間を通じて計画を立案し乳幼児のリトミックに取り組みました。回を重ねるごとに、意欲的に体を動かし出来ることが増えていく乳児クラスの子どもたちの姿に、継続した取り組みが幼児クラスの活動へとつながっていく事が再認識できました。リトミック参観では、幼児クラスだけではなく初めて乳児クラスの活動の成果についても保護者の方に見て頂き好評でした。
- 年間を通して「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」について、家庭と連携して取り組めた事で、子どもたちの生活リズムも整い、「食べるのが大好きな子ども」という年間目標も概ね達成することができました。しかし、食事マナーについては課題も残っているため、一人ひとりの子どもの様子を気を配りながら、次年度も引き続き取り組んでいきます。
- 今年度から行っている荒巻先生による歌唱指導では、子ども達への指導方法、歌いやすい伴奏方法など基本的な部分について学ぶことができました。子どもたちの中に「もっといろいろな歌を歌ってみたい」という気持ちが出てきています。

## ⑥家庭との連携

クラス懇談会（年2回）個人懇談会（年1回）就学前個人懇談会（1回）、保育参加（年1回）  
リトミック参観（年1回）

- 早朝保育を利用する0．1．2歳児クラスの子ども達が増えたため、一人ひとりの子どもの生活リズムや状況について、職員間で情報共有できるようにしました。
- 配慮が必要な子どもについては、関係機関（保健センター）（わかすぎ園）と連携し、発達相談の機会を設けたり、半年間の訪問支援を受けたりしました。4歳児で行われる5歳健診の結果については、OT／PTの巡回指導（年3回）を受けたりするなどきめ細かい対応を行い、保健センターと連携しながら就学に向けての取り組みを行っていきました。年長児の様子については、就学先の

小学校とも懇談会の機会を設けています。

- 日々行っている保育の意図や、子どもの育ちについて、連絡ノートや、送迎時の対話、お便りの他、写真掲示、スライドショーなど保護者が理解しやすい情報や形で伝えました。

#### ⑦人材育成

- 中心となっていた職員の異動や退職もある中、短時間勤務の職員や派遣職員も含め、職員全体で「一日の教育・保育の流れ」が徹底されるように、園長、主幹保育教諭を中心にして保育の現場を確認していきました。時間的な流れや子どもへのアプローチの仕方などはある程度理解はしているものの、子どもを観察する力や保育の丁寧さなど課題も残っています。
- 業務マニュアルや、危機管理マニュアルなど、主幹保育教諭、担当者を中心に見直しを行いました。職員それぞれが責任感や問題意識をもち取り組むことで、職員のモチベーションも高まり自信にもつながってよいと思います。
- 行事や係当番などの業務など、スムーズに準備ができるように、担当者を中心にして行事ごとの歳時記を作成し業務の効率化に努めました。
- 「安田式遊具を用いた運動遊び」「石井式漢字教育」「乳幼児のふれあい遊び」など講師を招き、園内研修を行いました。知識や技術の習得だけではなく、基本理念について再学習しました。
- 個別研修計画に基づき、園外（守口市こども部、私立認定こども園会、日本保育協会、大阪府社会福祉協議会など主催）の研修に参加し教育・保育の質の向上に努めました。

#### ⑧地域の実態に対応した事業

- 地域子育て支援センター事業（センター型）活動回数、計256回、利用者2402名
  - ・今年度は子育て支援活動の内容、活動場所の見直しを行いました。
  - ・近隣のコミュニティーセンターを利用しての週1回の出張保育では、ロコミでの新しい地域利用者が増えて、園を知ってもらうためのとても良い機会となりました。
  - ・活動内容は毎月のおたより、ホームページ、守口市広報紙にて定期的に掲載した他、各地域コミュニティーセンターや保健センターなどで掲示するなどして地域に情報発信しました。今年度は守口市の広報誌を見て参加する地域の方が多かったため、次年度については内容を精査し、担当課と打合せしていきたいと思います。
  - ・近隣の認定こども園3か園主催で行っている「遊びの広場」は年4回の開催を予定していましたが、猛暑であったため、7月の開催を中止しました。また、年末のクリスマス会では、初めて5つの大学、看護学校と連携して企画開催し、130名の親子の参加がありました。この企画に関しては今後も引き続き行っていきます。
- 地域とのかかわり
  - ・年間を通じて近隣高校の学生との交流（保育体験）を行いました。また、今年度は家庭科の授業の一環として、子どもの育ちを伝える「命のふれあい授業」を行いました。また、定期的な活動では、学生、地域の方と一緒に栽培した守口大根を市主催のコンクールに出品し、その後「収穫祭」として地域の方と一緒に食体験をしました。
  - ・グループホーム、デイサービスを年長児が訪問し、地域の高齢者の方と交流したり、地域の秋祭

りではだんじりを地域の人たちと一緒に曳いたりするなどに地域交流を行いました。

- 中野こども病院と連携し、地域支援として子育てに関する相談業務や入院、通院時の子どもの健康に関する情報交換を行いました。
- 就学先の校長、教頭、担当教諭に実際に園に来ていただき、意見交換する機会を持ちました。5歳児は就学先の小学校5校の授業見学や2校のふれあい交流会に参加しました。

#### ⑨苦情処理

- 第三者委員会の設置について、園のガイドブック、ホームページや園内掲示または、クラス懇談会（5月）にて保護者に知らせました。
- 苦情解決責任者を園長、苦情受付担当者を主幹保育教諭として、「意見箱」「アンケート」なども用いて保護者からの意見や要望を受付しておりましたが、対象となる苦情案件はありませんでした。
- 避難口の移設による避難経路の変更や、園児の遊び場の変更について、避難訓練の様子や、日々の子どもたちの運動遊びの様子を掲示やスライドショーで伝える事で保護者に安心して頂きました。

#### ⑩リスクマネジメント

- 「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」をもとに、危機管理委員会が中心となって「危機管理マニュアル」の見直しを行いました。事故の発生防止のために緊急時の対応体制や、安全確保に関するチェックリスト、関係機関との連携について確認し、職員会議や3月の職員研修において全職員に周知しました。ヒヤリハット報告についても様式や職員への周知方法などを変更し、職員の危機管理の意識が高まるように取り組みました。
- 大阪北部地震や台風21号などの災害が続いた中、本部の指導を受けながら、対応体制の見直しや災害備蓄品の整備を行いました。
- 環境省の熱中症対策保健予防マニュアルをもとに、園での熱中症の対応対策について見直しを行いました。
- 園庭内の避難口を使い、近隣高校を二次避難先として年3回避難訓練を行いました。また、子育て支援を利用する地域の方との合同訓練も年2回実施しています。
- 消防署と連携し、総合災害訓練（7月）、通報訓練（7・12月）を行いました。また、子育て支援センター利用の地域の方と合同での災害訓練を行いました。
- 職員研修計画に基づき、SIDS（年2回）やアレルギー対応（エピペン）、感染症の対応（年2回）、救命救急（AED）（年2回）など、看護師が中心となり計画的に園内研修を行い安全管理に努めました。
- 警察機関と連携して職員への防犯実施研修、園児への防犯指導（2月）を行いました。

#### ⑪その他

- 乳児用大型遊具購入
- 4・5歳児マーチング用衣装